

令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 甲賀市 (都道府県： 滋賀県)

1. 当該地域の情報 (令和3年3月現在)

地域の課題	甲賀市は、滋賀県内でも有数のものづくり企業が集積しているまちであり、市内の企業にはブラジルをはじめ多くの外国人が就労している。2021年2月末現在、総人口90,073人に対し外国人人口が3,831人と、その比率は約4.3%で、現在も増加傾向にある。一方、全国的な課題でもある人口減少、少子高齢化は、甲賀市においても例外ではなく、これからの地域の暮らしを維持していくためには、外国人市民も社会参画し、共にコミュニティを形成(地域共生)することが重要である。そのことから、甲賀市では、外国人市民が生活する上で直面する課題、まずは『言葉の壁』を解決するため、市国際交流協会等と連携し「日本語教室」をはじめ日本語教育にかかる施策を展開している。しかし、「日本語教室」を実施しているのは人口が密集した市街地であり、特に地域の担い手が不足している中山間地域で暮らしている外国人市民は、日本語を学習する機会なく市としても対策が遅れている状況である。
在住外国人数 外国人比率	人口11,000人 外国人257人 2.3%(信楽地域のみ)
在留外国人の 状況	【主な国籍】①ベトナム:49人 ②ベネズエラ:37人 ③ドミニカ共和国:29人 ④ブラジル:25人 ⑤韓国・朝鮮:22人 ⑥ペルー:20人 ⑥中国:20人 ⑦フィリピン:15人 ⑧インドネシア:5人 ⑩アメリカ:7人 【主な在留資格】①技能:67人 ②永住者:35人 ③技能実習2号口:31人 ④家族滞在:28人 ⑤技術・人文知識・国際業務:23人 ⑥特別永住者:19人 ⑦文化活動:10人 ⑧特定活動:8人 ⑨技能実習1号口:6人、留学:6人、日本人の配偶者等:6人 ⑩定住者:5人 【滞在年数・在留期間などの状況】 技能・技術・技能実習・家族滞在など、有期の在留資格者が多い。(信楽地域のみ)
在住外国人の 日本語教育の現状	甲賀市では、市街地(主に水口町内)で地域と繋がりながら安心安全に生活するための支援事業として、甲賀市と市国際交流協会、ボランティアが連携して日本語教室を開催している。一方、市街地から20km離れた信楽地域では日本語教室がなく、特に自動車を持たない在住外国人にとっては、日本語を学ぶ機会のない空白地域となっている。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	3年目			
事業の目的	信楽地域に在住する外国人市民に対して、日本で生活していく上で必要となる日本語学習の機会を提供し、言葉の壁(コミュニケーション不足)によるトラブルや孤立、悩みの解消に繋げ、地域の中で安心して暮らせる環境を整える。			
事業の概要	・甲賀市担当課、市国際交流協会、信楽地域ボランティア、アドバイザーによる「信楽地域日本語教室設置検討協議会」を設置。 ・信楽開発センターにて試行を開催(6/19) ・Zoom及び対面によるアドバイザー会議の開催(6/29、8/27、12/11) ・コーディネーター会議の開催(7/30) ・ボランティア会議の開催(9/15) ・毎月第3金曜日19:00から20:30(※12月から2月は第3日曜日13:00から15:00)、信楽開発センターにて「しがらきにほんごサロン」を開催。(7/17、8/21、9/18、10/16、11/20、12/20、1/17、2/21、3/19) ・しがらきにほんごサロンのボランティアを対象に、日本語ボランティアの心得や、やさしい日本語について学ぶ新規日本語ボランティア講座を開催(8/20) ・しがらきにほんごサロンのボランティアを含めた甲賀市で活動する日本語ボランティアに、Zoomを使った日本語教授について学ぶ研修を開催(9/7)			
事業の対象期間	令和2年4月～令和3年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	・「信楽地域日本語教室設置検討協議会」を設置し、信楽地域で活躍いただける人材の確保を進めた。 ・当該地域で、外国人従業員を雇用する企業への視察及び日本語学習に関する聞き取りを行った。 ・交流会(おしゃべりカフェ)を実施し、外国人参加者へ日本語教室に関する聞き取りを行った。生活していくために日本語を学ぶ必要性があるとの回答は多いなか、現在市内他所で開催中の日本語教室へは、距離があり時間が合わないとの意見も多く、信楽地域での開催を希望する声が明らかとなった。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	上甲 典江	-	-	教室活動の企画・準備、連絡調整・広報
	武市 智子	-	-	教室活動の企画・準備、連絡調整・広報
	中浦 裕子	甲賀市役所	多文化共生推進員	コーディネーター業務の総括
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	山田 泉	にんじんランゲージスクール	校長	○継続・新規(3年目)
	犬飼 康弘	(公財)ひろしま国際センター	日本語常勤講師	○継続・新規(3年目)
	藤井 美香	(公財)横浜市国際交流協会	シニアコーディネーター	○継続・新規(3年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制

甲賀市日本語教室設置検討協議会

- ・コーディネーター
- ・アドバイザー
- ・信楽地域のリーダー
- ・市国際交流協会

(事務局)
政策推進課

ボランティア育成部

- ・ボランティア募集
- ・ボランティア養成

日本語プログラム作成部

- ・日本語ニーズ調査
- ・地域の実態に沿った
プログラム作成

日本語教室運営部

- ・地域のニーズ調査
- ・地域連携

所属(担当課)	担当者名	職名
甲賀市役所 政策推進課	高市 素宏	係長
甲賀市役所 政策推進課	加賀 愛	主事
甲賀市役所 政策推進課	中浦 裕子	多文化共生推進員
甲賀市国際交流協会	大河原 佳子	事務局長
信楽地域のリーダー	上甲 典江	コーディネーター
信楽地域のリーダー	武市 智子	コーディネーター

(2)日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

[illegible]

4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和2年 4月			
令和2年 5月			
令和2年 6月	・日本語教室設置検討協議会(6/5) ・しがらきにほんごサロンを試行(6/19) ・日本語教室設置検討協議会(6/23) ・アドバイザー会議(6/29)	・2020年度事業計画の作成 ・日本語教室設置検討協議会への出席 ・アドバイザー会議への出席 ・試行の準備、実施	※Zoomによるアドバイザー会議 2020年度事業計画について
令和2年 7月	・しがらきにほんごサロン(7/17) ・コーディネーター会議(7/30)	・しがらきにほんごサロンの準備、実施 ・コーディネーター会議への参加	
令和2年 8月	・新規日本語ボランティア研修(8/20) ・しがらきにほんごサロン(8/21) ・アドバイザー会議(8/27)	・新規日本語ボランティア研修の企画、実施 ・しがらきにほんごサロンの準備、実施 ・アドバイザー会議への参加	※Zoomによるアドバイザー会議 アドバイザーと新規コーディネーターとの顔合わせ
令和2年 9月	・Zoomを使った日本語教授についての研修(9/7) ・ボランティア会議(9/15) ・しがらきにほんごサロン(9/18) ・街歩き(9/20)	・ボランティア会議への参加 ・しがらきにほんごサロンの準備、実施	
令和2年 10月	・しがらきにほんごサロン(10/16) ・ボランティア会議(10/27)	・しがらきにほんごサロンの準備、実施 ・ボランティア会議への参加	
令和2年 11月	・実施団体情報交換会(11/2) ・しがらきにほんごサロン(11/20)	・実施団体情報交換会への参加 ・しがらきにほんごサロンの準備、実施	
令和2年 12月	・空白地域解消推進会議への参加(12/2) ・アドバイザー会議(12/11) ・しがらきにほんごサロン(12/20)	・空白地域解消推進会議への参加 ・しがらきにほんごサロンの準備、実施 ・アドバイザー会議への参加	※Zoomによるアドバイザー会議 サロンの運営に関するボランティアの質問にアドバイザーが回答
令和3年 1月	・しがらきにほんごサロン(1/17)	・しがらきにほんごサロンの準備、実施	
令和3年 2月	・しがらきにほんごサロン(2/21)	・しがらきにほんごサロンの準備、実施 ・コーディネーター情報交換会への参加	
令和3年 3月	・ボランティア会議(3/18)※予定 ・しがらきにほんごサロン(3/19)※予定	・ボランティア会議への参加 ・しがらきにほんごサロンの準備、実施	

(2)立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	しがらきにほんごサロン		
外国人参加者について	[国籍]ドミニカ2名、ベネズエラ3名、コロンビア1名、ペルー5名、ベトナム1名、台湾1名、アメリカ1名、インドネシア2名 [属性]技能、家族滞在、技能実習、教育、医療	参加者数 (内 外国人数)	受講者5名 支援者10名 ※平均値

開催時間数		総時間15時間(3月19日含めず)		内訳 1.5 ～ 2時間 × 9回(3月19日含めず)			
目標		学習者が日常生活で困っていることを解決し、分からない日本語が聞ける場所づくり。 外国人住民と日本人の顔の見える関係づくり。					
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2020年6月19日(金) 19:00～20:30	1.5	信楽開発センター	5	教室内活動	小グループでの個別日本語教授 (フリートーク、信楽弁、児童手当の現況届の記入補助)	日本語ボランティア 14名
2	2020年7月17日(金) 19:00～20:30	1.5	信楽開発センター	8	教室内活動	小グループでの個別日本語教授 (あいさつ、五十音、自己紹介)	日本語ボランティア 13名
3	2020年8月21日(金) 19:00～20:30	1.5	信楽開発センター	8	教室内活動	小グループでの個別日本語教授 (仕事で使う日本語、漢字、電話のかけ方)	日本語ボランティア 11名
4	2020年9月18日(金) 19:00～20:30	1.5	信楽開発センター	9	教室内活動	小グループでの個別日本語教授 (数字の読み方、可能形、使役形、 国勢調査の記入補助)	日本語ボランティア 9名
5	2020年10月16日(金) 19:00～20:30	1.5	信楽開発センター	8	教室内活動	小グループでの個別日本語教授 (仕事で使う日本語、買い物で使う日本語、漢字)	日本語ボランティア 12名
6	2020年11月20日(金) 19:00～20:30	1.5	信楽開発センター	3	教室内活動	小グループでの個別日本語教授 (語彙の確認、フリートーク)	日本語ボランティア 11名
7	2020年12月20日(日) 13:00～15:00	2	信楽開発センター	2	教室内活動	年賀状作成体験、全体での発表	日本語ボランティア 8名
8	2020年1月17日(金) 13:00～15:00	2	信楽開発センター	2	教室内活動	書初め体験、全体での発表	日本語ボランティア 6名
9	2020年2月21日(日) 13:00～15:00	2	信楽開発センター	1	教室内活動	折り紙体験、全体での発表	日本語ボランティア 3名
10	2020年3月19日(金) 19:00～20:30	1.5	信楽開発センター	-	教室内活動	※開催予定	日本語ボランティア -名

【主な活動】



信楽地域日本語教室（試行）



第5回しがらきにほんごサロン



第7回しがらきにほんごサロン

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	人事異動等により市と関係者との関係構築が難しく、一年目・二年目はコーディネーターが決まらず、事業も進めづらかった。 三年目は人事異動がなかったことや、市の担当がコーディネーターの一人を務めたことで、連携が取りやすくなった。
--------------------	--

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
新規日本語ボランティア研修	2020年8月20日	参加人数:16名 担当講師:船見和秀 氏 対象:しがらきにほんごサロンボランティア、日本語教室設置検討協議会のメンバー、市内で活躍する日本語ボランティア 内容:日本語ボランティアを始める上での心得を学んだ(日本語ボランティアの魅力、日本語ボランティアを始める上での注意、日本語の特徴、やさしい日本語 他)。

Zoomを使った日本語教授についての研修	2020年9月7日	参加人数:15名 担当講師:井上くみ子 氏 対象:しがらきにほんごサロンボランティア、日本語教室設置検討協議会のメンバー、市内で活躍する日本語ボランティア 内容:コロナ禍においても安全に日本語教室を続けるため、Web会議システムZoomで日本語を教えるテクニックについて学んだ(ホワイトボード機能、イラストや動画の引用、ブレイクアウトルームの使い方 他)。
街歩き	2020年9月20日	参加人数:5名 対象:しがらきにほんごサロンボランティア及び学習者 内容:信楽地域で開催された「セラミックアートマーケット」や信楽焼の窯元を訪問し、伝統工芸である「信楽焼」に触れた。また、スーパーにも立ち寄り、生活に密着した日本語を学んだ。

【主な活動】



新規日本語ボランティア研修



Zoomを使った日本語教授についての研修



街歩き

5. 今年度事業全体について

進捗状況	新型コロナウイルスの影響もあったが、対面で予定していた会議をオンラインに切り替えるなどして、概ね事業計画通りに進めることができた。一方で、本来予定していた地域イベントへの参加や飲食等濃厚接触に繋がる活動ができず、ボランティアがマンツーマンで学習者に日本語を教える学習塾のような状態が続き、ボランティアのなかに「コロナ対策をしなければ」という思いと「これは自分たちが思い描いていた交流ではない」という葛藤が生まれた。
事業推進にあたり問題点と対応策	信楽地域のボランティアは日本語ボランティアの経験がない方が中心だったため、交流ベースのサロンという形で始めたが、学習者からは「体系的に日本語を学びたい」といったニーズも寄せられ、ボランティアが行う教室としてどこまでニーズに答えていくかが問題となった。繰り返し議論を重ねる中で、時には「自分たちには日本語教室はできない」とボランティアが自信を失いかけたこともあったが、アドバイザーの励ましに後押しされ、「まずはどのようなニーズの人でも受け入れる」ことをモットーに活動を進めた。
成果	しがらきにほんごサロン発足の理由(地域に在住する外国人の孤立解消)と活動内容(学習者・ボランティア双方が気軽に集まれる居場所づくり)をボランティア全員で繰り返し共有したことで、活動に問題や迷いが生じたときも諦めず、活動を続けることができた。
地域の関係者との連携による効果	信楽地域市民センターと連携し、地域で配布される市民センターだよりに活動紹介を掲載してもらったことで、地域ボランティアが増えた。
コーディネーターの主な活動	①信楽地域日本語教室試行及びしがらきにほんごサロンへの参加(15H)※3月19日は含めず ②信楽地域日本語教室設置検討協議会への参加(4H) ③コーディネーター会議への参加(2H) ④ボランティア会議への参加(2H)※3月18日は含めず ⑤アドバイザー会議への参加(6H) ⑥文化庁主催の研修への参加(9H)
アドバイザーの主な助言	・活動の目的(誰のために、また何のために)を明確にし、参加者全員が共有することで、もし脱線したとしても原点に戻ることができる。 ・どのような場所にしていくなか、外国人参加者も含めて話し合うことが、みんなにとっての居場所作りにつながる。 ・焦らず継続していくことが大切。 ・学習者と対話し理解することが学びに繋がる。 ・地域日本語教室は、日本人が外国人の視点を学び、すべての人が住みやすい社会を作る練習をする場。地域の活動が市全体の多文化共生に繋がる。

